

## 編集後記

本号では、三編の論説と史料紹介を掲載した。地元を知り尽くした眼で三重地域の古代の官道の復元を行った波津久文芳論文、宇佐宮古図の描き方に着目して絵図の性格と絵図の成立について新しい見解を提示した鈴木隆敏論文、戦国末期に大友領国に出現した「切寄」という小城から大友領国のあり方を検討した吉本明弘論文といずれ劣らぬ力作揃いである。史料紹介は、日限亨氏が天瀬町の山田家に伝わる貴重な近代史料「御用談記」を翻刻した。地域史研究目指す、若い研究者から長年地域に住んで研究をこつこつと積み上げてきた年輩の研究者まで幅広い方々から投稿を頂だき編集担当として感謝している。

会報は、六月一日に開催された大会の記録を掲載した。特にこの大会では、地方史五〇周年へ向けての事業の大枠が決められ、「市町村合併に伴う公文書等の保存に関する宣言」が採択され、本号にはその全文を掲載した。

なお、前号の発行の大幅な遅れから八月末発行予定の本号も一〇月となり、会員諸氏にはご迷惑をお懸けしたことをお詫び申し上げます。

(飯沼)

平成十五(二〇〇三)年十月二十五日 印刷  
平成十五(二〇〇三)年十月三〇日 発行

## 大分県地方史 第一八九号

編集者 飯沼賢司

発行者 豊田寛三

印刷者 廣永晴巳

大分市大手町二丁目三一四

印刷所 有限会社舞鶴孔版

(五三二一四二二二)

発行所

〒八七〇一―一二四

大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育福祉科学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・〇一五八〇一―二一五二九四)